

SSKW 働こう障害者も 働けるんだオしたちも

こぶしだより

企画：社会福祉法人 こぶしの会 責任者：藤田 勝春 編集責任者：鈴木 順子
編集：こぶし作業所 (〒321-0902) 宇都宮市柳田町1401番地



第2けやき作業所メンバー (7.5緊急集会より)

特集

グループホームの生活を支えるって、
どんなふうにか？

No.292



～ 目 次 ～

- ① 特集..... 2～3 P
- ② こぶし作業所のページ..... 4 P
- ③ けやき作業所のページ..... 5 P
- ④ 県東ライフサポートセンター、
第2けやき作業所のページ..... 6 P
- ⑤ セルフ・みらいのページ..... 7 P

グループホームの生活を支えるって、どんなふうじ?

利用者のみなさんが、自分達で地域生活を拓いていくことは、簡単なことではありません。グループホームの世話人のみなさんの目を通して、世話人との関係を含めて、グループホーム全体の中で利用者各自の生活づくりはどうしていったらいいのかということについて話しました。今回は紙面の都合上、その世話人の支援のあり方の部分を追ってみました。

司会

こぶし作業所支援部主任 小幡

参加者

◆けやきハイツ 鈴木(けやき)

一言

三年目、ベテランになってしまっているのでビツクリ。

GH構成

男性三名、女性一名、大家さんの敷地内にある一軒家。

一名就労、三名けやき作業所、車で五分程度。全日開所。

◆グループホームくるみ

川俣(こぶし)

一言

始まったばかりで分からないこともいっぱいあり不安ですが。

GH構成

女性二名、男性三名、欠員二名。

二階建てのGHとして新築一軒家。

一名入浴介助ヘルパー利用。月

から金開所。

◆こぶしのときわ荘 古谷(こぶし)

一言

ようやく三ヶ月たって利用者さんとも慣れてきて楽しくやっています。

GH構成

男性四名。現在は月から金。全日開所に向けて一部土日開所を行っている。

身体介助の必要な方が一名。食事作りはパートの方、一軒家。

◆セルプみらい 新井(みらい)

一言

新規に始まる「ぼてつと」で世話人をする予定です。まったく初めてのことはかなりなのでよろしくお願いいたします。

司会

鈴木

グループホームで同じ生活を送る仲間同士の結びつき、関係はどんなですか?

仲間同士の結びつきというより求められることもあるが、世話人との一対一の関係・結びつきが多いのに気づく。程度はどうあれ、一人の人に目が向くというのには皆ちよっと寂しいと思っていることを感じました。

川俣

作業所にいくとそんなに仲良くしているふうでもないけど、ハイツに帰ってくるとお互いに面倒をみたり、気にか

古谷



けているのが見え隠れしている。家族という様な感じにはならないけれど、結びつきは強くなってきた。

普段は一人で自分の時間を過ごしている利用者が居るが、食事は率先して「○○さんの分」と取り分けてくれたり、飲物を入れてくれる。喧嘩をよくする他の利用者も含めて、皆でTVを見たりも笑いあったりすることもあり、楽しそうな場面もある。

一人休んでいる方については、それぞれの話から名前も出てくるので、もう一人ここで一緒に暮らしている仲間がいるんだという認識ができています。んだなど感じています。

川俣

まだ始まったばかりということもあるのか、作業所でも世話人の様子を伺いに来て、いつの間にかくるみのメンバーが集まってきている。一緒に仲間としては意識しているようで、GHが始まるまではそんなに仲良くなかった二人が、生活の場面では初日から一緒にお風呂に入ったたりするようになるなど相手を受け入れてきている。みんなGHに

司会

鈴木

泊まることを楽しみにしてきている。

そのグループホームでは個人としての生活と集団としての生活の面があると思うが、どのように過ごしていますか?

例えば、朝は一般就労の方もいるので、必然的にその時間に間に合うようなリズムが決まってきた。新しく入居した方は、生活リズムが今までと違うようで、そのリズムができるまでは戸惑っていたりしていた。生活上の最低限のことは必要だが、管理するような決め事はつくりたくないようにしたい。

川俣

なるべくゆっくり過ごしてもいい。自分も家に帰るとドライバーとしてしまうけれど、利用者の方にも自分の思いのままくつるげる場にしていきたい。「あれやって下さい。これやって下さい」というのは言わないようにしてきていたんです。しかし、世話人ひとりですべてをやるうとすると何処にも手がつかなくなってしまうので、利用者の方にも自分達の住んでいる



古谷

ところなので、一緒に掃除してもらったり、料理してもらったりして、皆で生活をつくらせていきたいと思っている。ただ、例えば料理などで、自分がやりたいことを別の方がやってみたりして、必要以上に気を使ったりして、いることが分かったときがあるので、どのように緩和してあげればいいのかと思うときがあります。

鈴木

一人の利用者さんが、他の方へ世話をやいてあげたい気持ちがあるのに、される側は、今それをやってもらいたくないなどの気持ちのすれ違いが原因で喧嘩が頻繁になつたりすることがあり、あまりに一方的であつたりするときなどには注意をしたりもするが、どうしていったらいいかというも考えます。

司会

努力して話し合う場を持つようにしている。何かあつたら話し合うようにしているが、なかなか話し合いが苦手なので大変です。それでも、共同生活上のルールを共通認識としてもっていく場として必要だと思えます。

生活の流れというのは、一日の積み重ねで、一ヶ月、一年と結びつけていくことを見つめていくことでもあるのではないかと。目の前のことに追われてしまうことがあつても、振り返ってみるときに生

新井

活の流れができていくこと。それが地域の中で、ここが自分の家なんだと実感を持ちながら生活していけるようになるのかもしれない。利用者一人ひとりがそれまで積み上げてきた生活背景をもつてきてきた共同生活のなかでどう調和していったらよいか。



たとえば、玄関はその家の窓といわれるぐらいだけど、靴の脱ぎ方ひとつとってみてもどう接するのか。良いとか悪いでなく、そういうのは自由でいいのでしようか。

鈴木

玄関だけのことに限定してしまえば、二名は脱ぎっぱなし、残りの二名がしようがないなと直している。それがそれまでのそれぞれの生活習慣で、人に迷惑をかけることならともかく、あまり細かいことは言わないようにしている。

古谷

やっぱり、人に迷惑をかけるようなことでなければ言わない。というより、もつと他に言うことも多くて、あんまり何でもかんでもうるさく言うのも可愛そうになつてくる。

川俣

自分のことを考えてみても生活習慣については何かそれ違っていないといわれても、今更直せないことも多い。利用者にもし言つたとしても、言われることに慣れていて、

司会

じゃあ直すと直されても、その人の生き方を変えてしまうこともあるので、複雑であまり言わないようにしている。

利用者として世話人(職員)という立場の違いがある。どんなに一緒に平等にといつても、利用者からすれば、最終的には、世話人とは従属的な側面ができてしまふのではないかと。だからこそ、みんなのこれまでの生活背景を理解しながら、自分達がつくって生きていくのが求められる。GHの中だけでの生活でなく、地域での暮らしとして根を下ろすことに仲間達が目を向けていくように提案していく、社会との接点としての役割を世話人は担っているといえるのではないのでしょうか。最後に世話人の皆さんがどんなGHにしていきたいのかを聞かせてください。

鈴木

一人ひとりが楽しく、ハイツで過ごしやすいと思えるようにしていきたい。

ハイツのみんなで一緒に何かをやり遂げられたらと思つている。今年、利用者のみんなが自分のことは自分でやれるようにという目標を掲げている。

川俣

基本的にのんびりとゆったりと過ごせるような空間をつ

古谷

くついでいけたらと思つている。みんなが自分のしたいことがあつて、それをしていけるのが一番いいと思えるようになればいい。今年仲間同士・職員との関係づくりを深めていきたい。

みんなと一緒に居る時間をつくつて、ゆつくり楽しく過ごして欲しいと思うが、同じ部屋に居るのに別々のことをして過ごしているのが現状なので、少しでもみんなが楽しめる時間をつくりたい。声かけがなくても、自発的に取り組めることを増やして、その上で自由で楽しい時間を持つていけるGHになつてほしい。

新井



「ぼてつとに居たくないよな」という言葉が出ないようになりたい。後は実践していく中で関わって生活していきたい。

司会

世話人としては、利用者のみなさんを枠にあてはめるのではなく、一人ひとりが大切にされていくという大きな方向性を見失わないように、それぞれが生活の主人公となつていくことを支えることが大切。「ここが我が家」と思える地域での生活を支えていきましよう。今日は、ありがとうございました。

こぶし作業所ニュース

キャンプに行ってきました

6月24日(金)~25日(土)にかけて、1泊2日でキャンプに出かけました。梅雨真っ只中ということで天候が心配でしたが、こぶしのみんなは日頃の行いがいいためか天候に恵まれました。

今回のキャンプをどういったものにするのか、実行委員会では何度も話し合いを重ねて決めました。山、川、海のどこに行くのか、テントとバンガローのどちらに泊まるのか、観光には行くのか、一日キャンプ場でゆっくりと過ごすのか、などさまざまな意見が出ました。一つひとつの意見に対してみんなで意見を出し合い、時間をかけてゆっくりと話し合いを重ねた結果、今回は「なかまがつくる、たのしいキャンプ!!」を合言葉に、観光はせずにみんなでゆっくりとキャンプを楽しむということで決まりました。

実行委員で下見に行き、いろいろな場所を見た結果、場所は塩谷町にあるACNオーキャン宝島に決めました。決め手は、キャンプ場の環境がよく、何ととってもオーナーさんがとてもいい方で、キャンプ場を貸切にしてくださったり、新鮮な食材を調達してくださったりしたことです。当日のスケジュールもみんなで決めてしおりを作りました。

迎えた当日は、キャンプ場について、まず宝探しゲームを行いました。キャンプ場に隠された風船を探すというものだったのですが、必死に走り回り、一人で何個も見つける人もいました。ゲームが終わって、しばらくゆっくりと過ごしたあとは、みんなで夕食の準備です。夕食はオーナーさんが用意してくださった、ラム肉を使ったジンギスカンと焼きそばです。去年は、火をおこすのに時間がかかってしまったり、飯盒が炊けなかったりしたのですが、こういった昨年の失敗を経験にして、今年はスムーズに行うことができました。量も多く、お肉や野菜はとてもおいしかったです。

夜は、残念ながら星空を見ることはできなかったのですが、花火をしたりして楽しく過ごすことができました。朝食は、新鮮な卵や牛乳、焼きたてのパンをいただきました。みんな眠たそうな顔で食べていました。昼食のうどんもキャンプ場で食べ、本当にゆっくりと過ごして帰ることができました。

今回のキャンプを終えて、最後の実行委員会では、階段があって危なかったとか、きもだめしがやりたかったなどの意見がでたり、宝探しゲームはもっと違う方法でやっていたほうがよかったなど、さまざまな意見が出ました。ここでの話は、これからの自治会活動や来年以降のキャンプに生かしていきたいと思います。

最後に協力してくださったACNオーキャン宝島のみなさん、ボランティアのみなさん、どうもありがとうございました。



みんなでジンギスカン!! お肉がおいしかった。



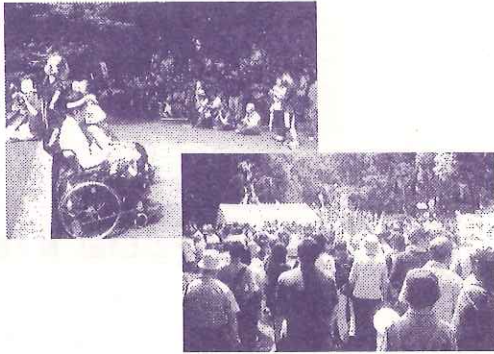
お宝が見つかりませんでした。

けやき作業所

ひびけ私たちの声 ― けやき作業所の七・五 ―

七月五日(火)、日比谷野外音楽堂と周辺には、梅雨の谷間、気温三〇度の蒸し暑さの中、七・五緊急大行動の集会と国会周辺までのデモが行われました。栃木県の一六人をはじめとして全国から、目標の七千人を大きく上回る一万十人超が集まり、「私たちを抜きに私たちのことを決めないでほしい」と障害者自立支援法案の納得のいく審議と改善を求めて訴えました。

とちぎグループは大型バス二台と電車で乗り込みましたが、すでに日比谷公園は人、人の渦。分散会場での集会に合流しました。



けやき作業所からも六人の仲間が参加し、集会の後、デモ行進に移り、通行人や国会

玄関に立つ議員の皆さんに、自分たちの実状を踏まえた講義の声を力の限り訴えました。



七・五緊急大行動のデモが終了後、けやきの仲間たちから感想を頂きました。

「予想を上回る多くの参加に自分もうれしく思つたことも、これからのけやきの活動もしっかりとやっていきたいと思つた」(直井)

「炎天下の中、頑張ったかいがあつたと思います」(那花)

「拡声器を使って自分たちの声をもっと聞いてもらいたかった」(田中)

「下準備をもっとしっかりとして、みんなでまとめた意見を訴えたかった」(佐々木)

「集まった数にびっくりした。つかれたけれどみんなと歩いてよかった」(湯澤)

今月のトピックス

けやき作業所職員の袖山典子さんと第2けやき作業所職員の土田浩二さんがご結婚され、けやき作業所で歓迎会が開かれました。みんなていろいろ質問を当人たちにしました。歓迎会で一番の盛り上がった手作りのケーキ入刀を見て、仲間たちもうれしそうに祝福していました。



けやき作業所デイサービスセンターの職員仲田洋子さんが、この度退職されることとなりました。仲田さんは、けやき作業所の元気の素のような存在でした。その仲田さんと離れるのに仲間たちの元気がない様子で、送別会を進行していましたが、最後には仲田さんの「近いので、またちょくちょく遊びに来ます」の一言で元気にお別れすることができました。

県東ライフサポートセンター

e-mail elsc.13.10.1@gutar.ocn.ne.jp

クローズアップ!

機関紙ほっとCHA『つくる会』

サポートセンターでは隔月に機関紙「ほっとCHA」を発行しています。毎週火曜日に『つくる会』と称し、記事の内容を決めることからレイアウトそして発送準備までの一連の作業をメンバー・スタッフが丸となり、計画的に進めています。センター内でのパソコン入力作業のほか、地域へ出での取材、独自アンケートや原稿の依頼・印刷作業など様々な作業をメンバー同士の関わりを大切にしながら取り組んでいます。『つくる会』に興味・関心のある方は是非参加してみてください。お待ちしております。



Q: 自立とは?

A: 「経済的なこと、就職!」「社会生活(働いて、金もらって、自活する)」「家族に心配かけないこと、一人暮らしできること」「精神面、自己責任が持てること!」

Q: 自立支援法での自立はありえると思うか?

A: 「ありえない!」「むしろ後退する」「生活そのものができなくなっていく。自立支援法には反対!」

Q: そういった意味で、デモは有意義でしたか?

A: 「テレビや新聞でも取り上げているところがあって、手ごたえはあった」「自分のことは自分でアピールする場ができたことが大きい!自分の力で何かしたと思う!」「実りある1日だった!」「署名活動をやっていて、もっと自分たちの思いを形にしていきたい!」

Q: また、緊急集会やデモがあれば参加したいですか?

A: 「したいです!」



当日は炎天下でしたが、皆さん疲れも見せず自分のもてる力をぶつけていました。皆の熱い思いがどうか届きますように!

ソフトボール開幕
六月から始まったソフトボールですが、暑さに負けず、汗だくになりながら月二回楽しく行っています。また、体育館も利用しソフトボールのゲームやバスケット等もやっています。練習の様子やゲーム内容等は随時掲載していきます。お楽しみに!。
ソフトボール日は機関紙『ほっとCHA』で確認して下さい。
さわやかな汗をかきたい方! サポセンに集まれGO!

サポセン日記 第2巻

私が『金子みすゞ』という童謡詩人を知ったのは、ブームがやってくる前でした。最近では関連した本が梁山出版され嬉しい反面、お気に入りのみすゞさんが皆のものになってしまい少し淋しい想いもします。「土」という詩がありますが、それを読むと「障害があろうがあるまいが私達は生まれるべくして生まれてきた」といつも元気づけられます。

(scメンバーより)

サポートNEWS

ようやくサポートセンター事務室にエアコンが入りました。今年の夏は快適?に過ごせそうですが、省エネと体調管理には十分気をつけます。(W)

第2けやき作業所

Dai2-Keyaki

きょうされん7.5緊急大行動~自立支援法反対運動~ 参加メンバーさんに直撃取材

Q: 緊急集会及びデモの感想は?

A: 「身体障害者・知的障害者・精神障害者などいろんな障害者の方が集っていた」「北から南まで大勢の人が居て、これは本物だと人数から実感した、一体感があった」「日比谷公会堂よりデモを起し、国会議事堂に行ったりした。待ち時間が長くてバテたけどアピール(応益負担反対)して帰ってくることができた」「デモの距離は思ったほど無かった。拡声器とか無く準備不足なところがあり、うまくシュプレヒコールにならなかったのでは…。拡声器は欲しかった。でも、目的は達成できたように思う」「もっと、実情からの脱却を訴えたかった」

Q: 実情というと?

A: 「仕事がない、賃金低い」「周囲の理解が無い」「就職面でのサポートがほしい、就職口が無いので経済的な自立ができない」「このまま、自立支援法が通ってしまうと生活していけなくなる」

みらいニュース



グループホーム「ぼてつと」認可・本格開所!!

新築のにおいのする居室に、自分たちの思い思いの生活用品を入れて、期待と不安の入り混じった表情の仲間たち：いよいよ七月からセルプ・みらいのグループホーム「ぼてつと」が開所しました。

一九歳から二五歳までの若い男性四人のグループホームです。「ぼてつと」という名前前はゆっくり、たっぶり、そしてほつとできるようにと付いたものです。四人のうちの三人は昼間セルプ・みらいで働き、一人は一般会社で働いています。仲間一人ひとりが自分のらしい生活を築けるよ

うに個々の思いを大事にしながら、小さなこともみんなて話し合い、真の「自立」をめざしたいと思っています。こぶし・けやきの先輩グループホームの皆さん、いろいろ教えてください。よろしくお願いします。

みらいフェスタ

七月九日(土)セルプみらいと地域との交流を目的として第八回みらいフェスタを行いました。

フェスタには二五名の仲間が参加しそれぞれの役割を担いました。当日は準備中に雨が降るハプニング？もありましたが、いざ始まると雨もやみ、一般の方も続々と来場されフェスタは活気に満ちあふれ、おおいに盛

り上がりしました。模擬店では焼きそば、カレーライス、フランクフルト、かき氷、ドリンク、かまぼこ販売、なかまの店(コーヒ)、フリーマーケット、催し物では日本舞踊、紙切り平助さんオンステージ、カラオケタイムなどがあり、お楽しみ抽選会では多くの方が参加してくれました。また、きょうされん大会成功におびて協賛金の訴え

も行い多くの方のご協力をいただきました。おかげさまでフェスタ終了時には模擬店の飲食物はすべて売り切れ、大盛況の中終えることができました。そして仲間達が役割をもって参加するという初めての試みも成功することができ、これまで以上に仲間一人ひとりの繋がりが深めることができました。



この場所から仲間達の新しい生活が始まります。どうか暖かく見守ってくださいね☆



〈仲間の感想〉

人がたくさんいたので活気があり、とても楽しいフェスタになりました。

藤沢 由紀

新しい職員を紹介します



はじめまして、桜井文子です。

七月一日より仕出し弁当作りのパートとして働かせていただいております。職員の皆様や明るく元気な仲間達から一つ一つ教えてもらっているところです。

早く仕事に慣れ少しもお役に立てるようがんばりたいと思っています。



僕たちのこと
 もっと知ってほしい!

ボランティア大募集

けやき作業所では、作業・創作活動・GHなどで、利用者さんとの交流をして下さる方を大募集!

興味ある方は、まず連絡を!

けやき作業所
 028-687-1040



こぶし作業所・後援会

ボランティア大募集!

1. 日常の利用者の作業補助
2. キッチン・セルフ (軽食喫茶店) の作業補助
3. フリーマーケットの準備・参加 (毎月第4日曜日)

お待ちしています


お問い合わせ こぶし作業所
 ☎028 (662) 1911

休日を利用して

体験ボランティアしてみませんか?

○第2けやき・ライフサポートセンターは、なし畑に囲まれたのどかなととてもよいところですよ!

☆第2けやき作業所
 ☆県東ライフサポートセンター



セルフ・みらい

ボランティアさん募集!!

- 箱折り
- ボールの取り組み (※1-3火曜日AM中)

※詳しくは、セルフ・みらいまで...
 ☎0285-81-1155



発行所
 郵便番号 257-0033

東京都世田谷区砧六-二六-二一
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

社会福祉法人 **こぶしの会**

- 法人事務局 こぶし作業所 ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401
 TEL 028 (662) 1911 FAX 028 (662) 1912
- 生活支援センター TEL 028 (613) 5703
 E-mail kobusi@chive.ocn.ne.jp
- キッチンセルフ ☎320-8508 栃木県宇都宮市若草1-10-6とちぎ福祉プラザ内
 TEL 028 (622) 0966
- こぶしのときわ荘 ☎321-3235 栃木県宇都宮市鑑山町字東原146-7
 TEL 028 (667) 5531
- く る み ☎321-0912 栃木県宇都宮市石井町2867-3
 TEL 028 (664) 0414
- けやき作業所 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244
 TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789
 E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
- 第2けやき作業所 ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532
 TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818
 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
- 県東ライフサポートセンター TEL 028 (687) 0311 FAX 028 (687) 0325
- すずらの家 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2305-2
 TEL 028 (677) 4430
- けやきハイツ ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井178
 TEL 028 (677) 2876
- 第2けやきホーム ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井1204-4
 TEL 028 (677) 0776
- セルフ・みらい ☎321-4363 栃木県真岡市亀山1043-23
 TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177
 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp